

学力向上に向けた全体計画

中野区立第七中学校

東京都教育委員会基本方針

- 1 「人間尊重の精神」と「社会貢献の精神」の育成
- 2 「豊かな個性」と「想像力」の伸長
- 3 「総合的な学習力」と「生涯学習」の充実
- 4 「市民の教育参加」と「学校経営の改革」の推進

中野区立学校教育の指導目標の重点

- 1 小中連携教育の充実を図るため、各校において発達段階や、学びの連続性をふまえた、意図的・計画的な教育課程を工夫し、具体的な教育活動を展開する。
- 2 学習意欲を喚起するために授業改善を一層推進するとともに、一人ひとりに応じた補充的な学習の実施や、家庭と連携した学習習慣の定着を図り、学力の向上に努める。
- 3 望ましい生活習慣の確立と体力向上に向けた取組を充実させ、すこやかな体の育成に努める。
- 4 発達の段階に応じて人権教育及び道徳教育を充実させ、豊かな心の育成に努める。

学校の教育目標

- すすんで学ぶ人になろう
- 心ゆたかな人になろう
- 社会につくす人になろう

学校、地域の実態

規律正しく伝統のある校風 住宅地域で安定した地域環境

地域・保護者の期待や願い

知徳体のバランスのとれた生徒の育成

学校経営方針

- 1 「確かな学力」を身につけさせる学校を目指す
- 2 体験を通し、豊かな心を育てる学校を目指す
- 3 自己有用感を育み、母校への誇りをもたせる学校を目指す
- 4 開かれた学校を目指す

特別の教科 道徳 の指導の重点

- ・あらゆる差別やいじめを無くし、人権を尊重する態度を育てるとともに、自他の生命を尊重する心情と判断力を育てる。
- ・3年間を見通した全体計画に基づき、特別活動並びに各教科、総合的な学習の時間との関連を図りながら教材・指導法の工夫により道徳科を充実させるとともに道徳性の育成を図る。
- ・地域行事やボランティア活動への参加など社会的な体験を通して、規範意識とボランティア精神を育成する。
- ・本校特別支援学級との交流を通して人とのかわり方を学び、よりよい人間関係を築く姿勢を養う。

各教科の指導の重点

- ・各教科とも工夫のある授業の実施により主体的に学ぶ力と基礎的・基本的な内容を確実に習得させる。
- ・言語活動を充実させ、思考力・判断力・表現力を育成する。
- ・**数学・英語**において習熟度別少人数授業を展開し、一人ひとりの生徒への的確な指導を実践する。
- ・ICT機器等を活用して、さまざまな情報を収集、選択、活用できる能力を育てる。
- ・校内研修を通して、学習意欲を向上させる指導法の工夫についての研修を深める。

特別活動の指導の重点

- ・生徒一人ひとりが集団の一員としての責任を果たし、よりよい集団を築こうとする自主的、実践的な態度を養う。
- ・生徒一人ひとりがコミュニケーションを図りながらお互いを理解し合い、よりよい人間関係を築こうとする態度を養う。
- ・特別支援学級との交流をはじめとする人とのかわり合いを通してコミュニケーション能力を育成する。
- ・安全教育を充実させ、自他の生命を尊重する態度と実践力さらに社会貢献力を培う。
- ・ボランティア活動を通して、地域や社会に貢献する心や態度を身に付けさせる。

本校のとらえる「確かな学力」

- ① 基礎基本の確実な定着
- ② 家庭学習の定着
- ③ 読書活動の充実
- ④ 「総合的な学習の時間」の充実
- ⑤ 学習教室等の充実

総合的な学習の時間の指導の重点

- ・全体テーマ「共に生きる」
1年「地域を知る」2年「社会を学ぶ」
3年「未来を考える」
- ・社会を知り、自分のことを振り返り、社会と関わる力を身につけさせ、「生きる力」の育成を図る。
- ・校外学習を校外の体験的調査、学習の場として位置づけ、体験的に課題解決を図る学習を展開する。

生活指導における指導の重点

- ・時間、身なり、言葉遣い、あいさつの4点を重点的に指導して基本的な生活習慣を確立させる。
- ・生徒会活動や学校行事を通して、自己肯定感を高めさせる。また小学校との交流を推進することによりコミュニケーション能力を伸長するとともに自他を尊重し合う心情と態度を養う。
- ・教職員の日々の情報交換やふれ合い月間を活用し、生徒の実態把握に努めるとともに、いじめ防止委員会や生活指導部会、校内委員会で情報の共有を図り、関係機関とも連携を図りながら生徒への適切な対応を行い、予防と早期発見、早期解消を実現する。
- ・保護者、地域、関係機関と連携しながら、非行防止や犯罪から身を守る態度を養う。
- ・関係機関と連携しながら、安全教育や防災教育を推進し、生徒自らが安全を確保する実践的な態度を養う。
- ・SNS 学校ルールを策定し、生徒の発達段階に応じた指導を推進する。

進路指導における指導の重点

- ・キャリア教育全体計画に基づき、発達段階に即し、自己理解を援助し、生徒一人ひとりの個性・能力に応じた指導の充実を図る。そして地域と連携した体験的な活動を通して、主体的に進路選択できる能力と態度を育てる。
- ・自己の進路を自ら決定していく力を身に付けさせるために、第1学年で職業調べ、第2学年では3日間の職場体験と上級学校訪問、第3学年では上級学校についての講演会等を実施する。

本校の授業改善に向けた視点

◇教育課程編成上の工夫	◇指導内容・方法の工夫	◇評価・評定の工夫	◇校内研修の工夫	◇家庭・地域との連携
<ul style="list-style-type: none"> ・教育活動全体を通しての人権尊重の理念の理解と思いやりの心の教育や規範意識の育成 ・小中連携教育を踏まえた指導計画の作成 ・朝読書の実施(通年) ・長期休業中の学習教室の実施と年間を通しての放課後学習教室の実施 ・年3回全学年学習コンテスト実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・言語活動の充実 ・習熟度別少人数指導の工夫、学習指導支援員等の活用、放課後学習指導の実施 ・ICT機器の活用 ・オリンピック・パラリンピック教育を通して国際理解教育の推進と体力向上を図ると共に「多様性を学ぶ」をテーマに講演会等を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業改善の推進 ・指導と評価の一体化 ・評価計画の作成 ・定期考査後「学習の振り返り」の実施 ・教育計画説明会における教育課程及び評価、評定の説明 ・講師を招き、「信頼される評価について」研修を実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・「魅力ある学校づくり」を目指して～授業力の向上と生徒理解～を研究主題とした指導法の工夫や授業公開などを通じた、授業力向上に努める。 ・小中連携教育協議会において先行導入している小学校から道徳の授業展開について学ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・第二土曜公開や道徳授業地区公開講座等の学校公開の実施 ・地域及び保護者対象の安全教育、健康教育などの講演会の実施 ・年2回実施の面談における相談機能の充実 ・適切な課題指示による家庭学習の定着

2 各教科における授業改善プラン

(1) 国語科

国語科の重点

- ・本に親しませる機会を多くする。
- ・古典作品を暗記させ、古典を身近にさせる。
- ・自分の考えを発表する機会を多くし、話す力、聞く力をつけさせる。
- ・書き初めコンクールでは互いの作品を鑑賞する。

【中学校】

現状分析 (成果と課題)		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	<ul style="list-style-type: none"> ・今回の学力調査では、「話す・聞く力」と「言語についての知識・理解・技能の能力」の観点の中野区の達成率を少々下回っている。 ・授業に臨む姿勢は全体的に意欲的だが、学習習慣の定着に差がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「漢字の学習」や「すらすら基本文法」「国語の学習」を使用して予習・復習に取り組めるようにしているが、定着できない生徒もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「漢字の学習」や「すらすら基本文法」等を使用し、言語についての力を身に付けさせる。 ・3分間スピーチや聞き取りテスト等を通じて、「話す・聞く力」を身につけさせる。 ・ワークシート、「国語の学習」により「読む力」をつける。
2年	<ul style="list-style-type: none"> ・今回の学力調査では、「言語についての知識・理解・技能の能力」の観点の中野区の達成率を下回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「漢字の学習」や「すらすら基本文法」「国語の学習」を使用して、予習・復習に取り組めるようにしているが、定着できない生徒もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「漢字の学習」や「すらすら基本文法」等を使用し、言語についての力を身に付けさせる。
3年	<ul style="list-style-type: none"> ・今回の学力調査では、「書く力」及び「言語についての知識・理解」に課題があることがわかる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「書く」課題に取り組む意欲が低い生徒が一定数いる。 ・小学校で学習した漢字が定着していない生徒がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業内で自分の考えなど、書く時間を増やす。 ・漢字の小テストを繰り返して、定着をはかる。

(2) 社会科

社会科の重点

- 主体的対話的な学びを通して、深い学びを実現させる。
- 身近な事例を取り上げ、社会的事象への関心を高め主体的に学習する態度を育成する。
- ICTを含め各種教材を活用して、社会的事象に関する基礎的な知識の定着を図る。

【中学校】

現状分析 (成果と課題)		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	<p>◇「社会的事象についての知識理解」が目標値をわずかに下回った。「関心・意欲・態度」、「思考・判断・表現力」と「資料活用の技能」は目標値を超えている。</p> <p>◇授業に臨む姿勢は、全体的に意欲的である。学習習慣の定着に大きな差がある。</p>	<p>◇復習が習慣化していないために、基本的な知識が定着していない生徒がいる。</p> <p>◇知識・技能不足のために、一斉での作業や考察活動についていけない生徒がいる。</p> <p>◇自分で考え、表現する力を身に付けさせる指導の工夫が必要である。</p>	<p>◇ICTを含めた多様な教材を使い、学ぶ意欲を高める。</p> <p>◇单元ごとに知識の定着を確認するワークやテストを行うと共に、放課後に再テスト・補充学習の機会を設ける。</p> <p>◇授業の中で対話的な学びの場を多く設定し、お互いを高め合う場面を設定する。</p>
	<p>◇「社会的な思考・判断・表現」が目標値を5ポイントも上回った。それ以外の観点も、目標値をこえている。「関心・意欲・態度」も目標値を約5ポイント超えている。</p> <p>◇授業に臨む姿勢は、全体的に意欲的である。学習習慣の定着には個人差がある。</p>	<p>◇思考判断表現力を高めるためのグループワークや振り返りなどによって一定の成果が上げられている。</p> <p>◇知識・技能の定着を更に図って、より深い学びとなるような授業展開を行う必要がある。</p> <p>◇知識の定着に個人差がある。</p>	<p>◇单元指導計画の段階で、社会的な見方・考え方をどこでどのように働かせるべきか、またどのような問いで主体的対話的な学びを実現するのかをしっかりと設定し、授業展開する。</p> <p>◇单元ごとに行う振り返りや授業前の復習確認テストを有効的に活用する。</p>
	<p>◇「社会的事象についての知識理解」が目標値をわずかに下回った。「関心・意欲・態度」、「思考・判断・表現力」と「資料活用の技能」は目標値を超えている。</p> <p>◇授業に臨む姿勢は、全体的に受動的である。学習習慣の定着に大きな差がある。</p>	<p>◇復習が習慣化していないために、基本的な知識が定着していない生徒がいる。</p> <p>◇授業における生徒同士の学び合いが深まっておらず、考察する力、表現する力が弱い。</p>	<p>◇单元ごとに知識の定着を確認するワークやテストを行う。</p> <p>◇毎授業後に、根拠をもって意見を記述する時間を設定し、考え表現する力の定着を図る。</p> <p>◇授業内にペアワークを取り入れ、より話しやすい状況をつくる。</p>

(3) 数学科

数学科の重点

- 1, 習熟度別少人数授業で、個に応じた教材を用い、工夫した授業を行い、基礎・基本の定着を図る。
- 2, 計算や方程式の解法について、答えだけでなく途中の式を丁寧に書かせる指導を徹底し、表現する力を重視する。
- 3, 数量の関係や図形の性質などを考察し、見出した根拠をもって表現したり説明したりする力を育む。
- 4, 日常の事象を数学的にとらえたり、学んだ数学の知識を普段の生活に生かしたりして、数学が役立つことを実感させるよう指導する。

【中学校】

現状分析 (成果と課題)		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	<p>◇学力調査では、全体的に目標値より上回っており、区内との比較では、同程度となっている。</p> <p>◇授業に臨む姿勢は全体的に意欲的だが、基礎・基本的な内容の定着や学習習慣の定着に差がある。</p>	<p>◇基礎・基本の学習内容の確実な定着と学習習慣の定着を図り学力の底上げを図るとともに、上位層の応用的な力をさらに伸ばしていく。</p>	<p>◇少人数習熟度別授業を生かし、個に応じた教材や、授業展開をより工夫していく。</p> <p>◇全クラス毎授業始めに、復習プリントの実施を行う。また、宿題を定期的に課し、家庭学習の習慣化を図る。また、テスト前後など定期的に放課後学習会を行う。</p> <p>◇話し合い活動を授業の中に取り入れ、数学用語を使った説明のし合いや、教え合い活動を積極的に行わせていく。</p>
2年	<p>◇数学的な考え方の数値が他の分野に比べて低くなっている。</p> <p>◇授業は規律を守って受けているが、基礎基本の定着ができていないことが多い。</p>	<p>◇基本的な知識技能が積み重なっていない生徒がいる。そのため応用問題に取り組むことができていない。また、関心・意欲に欠ける部分もある。</p>	<p>◇少人数習熟度別授業を生かし、個に応じて質問に応じたり演習時間を多めに取ったりする。</p> <p>◇宿題を定期的に課し、家庭学習の習慣化を図る。また定期考査前に学習会を開催したり対策プリントを配布したりする。</p>
3年	<p>◇数学的な考え方の数値が他の分野に比べて低くなっている。</p> <p>◇授業は規律を守って受けているが、基礎基本の定着ができていないことが多い。</p>	<p>◇基本的な知識技能が積み重なっていない生徒がいる。そのため応用問題に取り組むことができていない。進学に向け意欲は向上してきている。</p>	<p>◇少人数習熟度別授業を生かし、個に応じて質問に応じたり演習時間を多めに取ったりする。</p> <p>◇宿題を定期的に課し、家庭学習の習慣化を図る。また、放課後学習教室を活用し、さらなる意欲向上と基礎基本の定着を図る。</p>

習熟度別少人数指導の充実及び任期付短時間勤務教員活用の工夫

習熟度別に課題等を準備し、個に応じた内容のものを使用することで、習熟度に適した指導を行っている。また、任期付短期時間勤務教員を基礎コースに配置し、授業中につまずきが見られる生徒への対応を行うとともに、放課後学習教室での補習的な指導を実践している。

(4) 理科

理科の重点

- ・ 実験や観察を通して、理科に対する関心や意欲を高めると共に、実験や観察の結果から気がついたことや規則性を見いだす。
- ・ 基礎知識を用いて、発展的な学習や問題に取り組む。

【中学校】

現状分析 (成果と課題)		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今回の学力調査では、達成率において区の達成率には到達している。 ・ 実験観察の技能だけ達成率が高い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 理科に関する関心、意欲そのものが低い。 ・ 知識・理解などの基礎学力が定着していない。 ・ 理科は覚える教科であるという間違った認識がある。 ・ 文章読解力や簡単な計算力が低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実験・観察を中心に授業を展開すると共に身近な教材を活用して関心・意欲を高める。 ・ 理科的な原理を身近な現象に結びつけ、なぜそうなるのかを理論的に考えさせるなど、思考力の向上を図る。 ・ 演習を数多く行って、解答する能力を身に付けさせる。
2年	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今回の学力調査では、すべての観点において達成率が区と比較しても低い。 ・ 特に物理的な計算問題に弱い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 理科に関する関心・意欲を高める必要がある。 ・ 知識・理解などの基礎学力が定着していない。 ・ 物理的な思考の仕方を身に付けていない。計算力も低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実験・観察を中心に授業を展開すると共に身近な教材を活用して関心・意欲を高める。 ・ 身近な現象についての内容を授業で扱い、原理を実験や観察を通して理解させる。 ・ 物理的な考え方と計算を、演習を数多く行うことで解答する力を養う。
3年	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今回の学力調査では、すべての観点において達成率が区と比較しても低い。 ・ 特に観察・実験の技能が極端に低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基礎学力から応用へと発展させる力が弱い。 ・ 理科は覚える教科であるという間違った認識がある。 ・ 実験は数多く行っているが、系統立てて記憶することができていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 過去2年間の学習を振り返りながら基礎力と応用力を身に付けさせる。 ・ 身近な現象についての内容を授業で扱い、実験や観察を通して思考力の向上を図る。 ・ 計算演習などで、反復学習を行う。

(5) 音楽科

音楽科の重点

- ・ 表現および鑑賞の幅広い活動を通して、音楽を愛好する心情を育てるとともに、音楽に対する感性を豊かにする。様々な表現を通じて音楽活動の基礎的な能力を伸ばし、音楽文化についての理解を深め、豊かな情操を養う。

【中学校】

現状分析 (成果と課題)		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	◇概ね落ち着いて意欲的に取り組むことができる。 ◇歌唱活動は声量豊かに表現でき、意欲もある。良い手本、見本を提示しより質の高い表現力を身につけさせる必要がある。 ◇読譜力が低く、出身小学校によってばらつきがある。	◇楽典理論の理解、読譜力の強化と音楽用語・楽語の理解・活用の定着を図る。 ◇歌唱活動においての意欲を技術の向上につなげていくことが必要である。 ◇変声や読譜に対するコンプレックスを排除し、音楽から感じられる喜びや楽しみを味あわせることが必要	◇学習シートを工夫し定期的に取り組みさせる。 ◇1時間の授業の中で相互評価の場面を設けることで互いに聴き合い、全体の演奏技術向上を図る。 ◇1時間の授業の中で短いドリル形式で読譜練習を実施する。聴音、楽語・用語・記号の活用練習の実施。
	◇昨年度から引き続き落ち着いた学習活動ができています。鑑賞は落ち着いて聴くことができる。読譜力や楽曲分析力が向上してきた。	◇意欲を集団で表現する力強さにつなげていくために発声練習方法の工夫が必要である。 ◇読譜力の強化。楽曲分析や表現力の更なる深化を図る必要がある。	◇各課題に対して達成感を得られるよう『個人達成カード』を利用して演奏技術の向上を図る。 ◇見本となる生徒の活用を図る。 ◇一時間の授業の中で短いドリル形式で読譜練習を実施する。
	◇落ち着いた雰囲気でも活動できるが、意欲的な生徒とやや消極的な生徒に二分される。 ◇鑑賞については音楽表現を味わいながら聴き取り、詞の解釈の深化を図ることもできる。 ◇変声期も終わりに近づくと発声法の悩む生徒がクラスに数名いる。 ◇音楽表現の幅を広げるために、多様な音楽に触れる必要がある。	◇興味関心を引き付ける指導を心がけ、意欲的、主体的に活動させていくことが必要である。表現することの喜びを体感させられるようアプローチの仕方を工夫する。ミニレッスンの時間の工夫が必要。できたところを褒め、意欲につながる指導の工夫。 ◇幅広い音楽表現を身につけさせるために、多岐に渡り、多様な音楽作品の鑑賞を取り入れていくことが必要である。	◇各課題に対して達成感を得られるよう『個人達成カード』を利用して演奏技術の向上を図る。 ◇グループごとに詞の表現や練習の方法を話し合わせ積極的に関わりをもたせていく。発言の機会を計画的に設定し演奏について、批評したり、工夫したりしたことを伝え合い、表現に生かすようにする。 ◇鑑賞教材は幅広いジャンルから選択し、生徒の興味関心へつなげる。

(6) 美術科

美術科の重点

- ・ 絵画、彫刻、デザイン、工芸、美術史等の基礎知識を習得する。
- ・ 制作する楽しさ、鑑賞する楽しさを身につけ、日常で美術を身近に感じる心を養う。
- ・ 個々の作品への具体的な対応策を研究し、個性を伸ばす指導を充実させる。

【中学校】

現状分析（成果と課題）		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	表現活動に対して関心・意欲をもって授業に取り組んでいる。 意欲的で発想・構想に独創性のある生徒が見受けられる一方で、自己表現に苦手意識をもつ者もいる。	発想段階で自己表現がむずかしい生徒もいる。 既存の手本などに頼りすぎな傾向があるので、個性を表現できるような働きかけが必要である。	ひとりひとりが個性を大事にするように声掛けをする。 課題の目的を明確化し、計画的に作業をすすめられるよう働きかける。 個別指導で個々の良さを出せるように表現を選び指導する。
2年	制作活動において、一定の関心・意欲をもって授業に取り組んでいる。 発想や構想の能力に個人差があり、進度に差が生まれやすい傾向にある。	全体説明で理解出来ず、個別指導が必要な生徒が数名いる。 作業を効率よくすすめるために、個々が工夫する力を引き出したい。	各授業時間での課題をはっきり認識させ、生徒の興味を引き出せるよう多様な資料を用意する。 個別指導では個々の能力に沿った表現でアドバイスをするようこころがける。
3年	発想や構想の能力に個人差があり、作品完成度などに差が生まれやすい傾向にある。地道な取り組みや、表現の技術的方法の理解が十分と言えない。	一つの目標を粘り強く取り組まず、達成感や美的体験を十分に味わっていない生徒が多い。 発想が乏しく技術面に課題が多く、稚拙な発想や集中力に欠ける生徒もおり、途中で挫折したり丁寧に仕上げたりすることができない生徒がいる。	各々の目標か課題をはっきりさせ目標を達成できるよう指導する。各題材の導入時に見せる参考作品はできるだけ多様なものを提示し、興味関心を抱かせる。 個別的な指導に力を入れ、自らの創造性や興味関心を引き出せるよう助言していく。

(7) 保健体育科

保健体育科の重点

- ・それぞれの種目の特性を理解して運動の楽しさを感じ、積極的に体を動かす生徒の育成。
- ・授業を通して、学校生活にも規律を守る態度を身に付けさせる。
- ・1時間の中で「できた」、「わかった」と感じる場面が多くあるような授業にする。
- ・授業の中で振り返りをし、話し合い活動などを含めてワークシートなどの活用を深める。

【中学校】

現状分析 (成果と課題)		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	<ul style="list-style-type: none"> ・運動能力は全国・都の平均と比べて上体起こし、反復横跳びの記録が劣っているが、その他は東京都の平均を越えている。 ・集中が途切れがちな生徒が若干おり、規律を守り、授業を作っていく態度を養うことが重要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・興味関心は高いが、規律や体力の向上につながっていない。 ・運動についてのルールや用語などの知識に乏しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・安全面のことを含め、話を聞く態度や用具の使い方などを単元のはじめに指導し、以降も繰り返していく。 ・授業の導入において体力向上のために運動遊びを高めた体力項目に応じて工夫して取り入れる。 ・単元の始めと終わりに種目ごとのまとめを行い、3年計画で知識量を増やしていく。
2年	<ul style="list-style-type: none"> ・運動への興味関心はあるが、活気に差があり、運動経験の少ない生徒は消極的である。 ・運動能力では昨年度より向上が見られたが、未だ反復横跳びと、ハンドボール投げで全国・都の平均を下回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の規律を守ろうとする姿勢が見られるが、知識量が乏しいところもある。 ・指示を受けて活動はスムーズにできるが、自ら考えて工夫をして練習や試合をしていく態度をより高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・単元小テストを実施したり、授業中の質疑応答を通して知識を増やしていく。 ・授業の工夫として、グループで考えて練習する時間を設ける。 ・特に投動作について体力の向上を図る。
3年	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的に活動し、授業を自分たちで盛り上げ、組み立てようとする姿がみられる。 ・課題を設定し、知識を用いて解決する力を高める。 ・運動能力はこの2年間で向上が見られるが、長座体前屈で全国・都の平均を下回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・試合等は自分たちで運営できる種目が多くなっているが、課題を発見し、それを解決する行動に移せていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートを活用し、課題解決能力の向上を図る。 ・ペアやグループで互いの課題を指摘し、練習法を検討する授業を展開する。 ・授業の中で技能やルールについて質問する時間を設け、生徒同士での教え合う時間を増やす。

(8) 技術・家庭科

技術・家庭科の重点

この教科を学ぶ意義、ものづくりを通して、問題発見、課題設定、課題・問題解決するといった将来に活用できる生きる力につながる学習であることをガイダンスや授業等あらゆる機会に伝え、実践を通して体得すること。

【中学校】

現状分析 (成果と課題)		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	授業展開をした見取りから、概ね話を聞く態度はできている。作業も次の作業説明だけでなく、何段か前の説明も見通しを持ってイメージ化できる。	全作業の見通しをイメージしながら、各作業場面での作業方法や注意点を体得すること。	完成のイメージから、ありがちな問題点を例に上げて、問題点と改善点を考えさせて、自分の作業に活かすように働きかける
2年	授業展開をした見取りから、話を聞くこと。聞いて自分の作業に活かそうとする点が弱い。	情報を収集することの価値を理解する。 目先の加工にとらわれて、情報を収集することの大切さを後回しにしてしまう課題がある。	情報の集め方、姿勢、態度を意識させて、情報を集めて、考えて行動することの価値を作業をしながら、試行錯誤して学ぶようにする。
3年	授業展開をした見取りから、概ね話を聞く態度はできている。さまざまなケースも場合分けして学ぶことができる。	収集した情報を基に、確からしい方法で、課題解決を図る実践的な作業とその作業の目的、作業終了を判断する見極め方法をつかむことが課題。	各場面で包括的に説明をして、各場面でどのように応用するのかを考えさせ、演繹的な手法で課題解決を図るように改善を促す。

(9) 英語科

英語科

- 4技能をバランスよく取り入れた授業の実践
- 第1～3学年における少人数指導の実施と充実
- 学力向上アシスタントやALTの効果的な活用

【中学校】

現状分析（成果と課題）		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	<p>・小学校英語活動において、会話表現や生活関連の基本語彙を「聞く・話す」等の音声面を中心に慣れ親しんでいるが、中学校では「読む・書く」が加わる。生徒によっては、小学校の英語活動とのギャップを感じ、英語の読み書きに困難を感じている。中学校1学年においては特に読み・書きに対してつまずきにならない工夫が授業に必要となる。</p>	<p>・音と文字を一致させる活動を行う。 ・毎時間の「指導のねらい」をはっきりさせ、基本的な事項の定着を図ると共に、語彙力をさらに高める。 ・「自己表現力」を高め、発話の抵抗感をなくす。</p>	<p>・「聞く・話す」を中心に導入し、その後で音読練習に力を入れる。また、時々音読テストを実施する。 ・定期的に英語を書く活動を取り入れる。 ・英語のスピーチを実施し、自己表現力を高める。 ・ALTとのチームティーチングを活用し、英語を使って積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。</p>
2年	<p>全ての観点において、校内達成率が区の達成率よりも下回っている。特に「言語や文化についての知識・理解」の観点が著しく低い。</p>	<p>基本的な語形・語法が定着していない。また、英単語を正しく書くことを苦手とする生徒が多い。</p>	<p>・毎回の授業において、既習事項を使った英作を行い、知識を定着させる。 ・単語や文法の小テストを取り入れ、生徒が学習する機会を増やす。同時に、生徒の理解度を把握し、必要に応じて復習の機会を設ける。</p>
3年	<p>・全ての観点において、区の達成率よりも下回っていた。 ・特に「外国語表現の能力」と「知識・理解」の観点が低かった。</p>	<p>英語の語彙不足や基本的な文法の知識が定着していない。外国語表現の能力に関しては、スピーチのために書いたり話したりする練習をしているが、苦手な生徒も多い。</p>	<p>・単語や文法の小テストを取り入れて、勉強する機会を増やし定着を図る。 ・各単元で習う文法を使って、自分の意見を英語で書く練習をしていく。</p>

少人数指導の充実（任期付短時間勤務教員活用の工夫）

- ・生徒が質問しやすい
- ・一人一人の音読を確認することができる
- ・個別指導がしやすい。

ALT活用の工夫

- ・学んだ文法を使ってゲームをしたり、話したりする機会を増やす
- ・スピーチテストの評価